

重点3 英語活動の推進

小学校における英語活動

ねらい

- ・ 小学校段階から世界に目を向け、国際感覚を身につけた豊かな心を持つ子どもを育成するため、国際理解教育の一環として、英語に親しむことを重視した活動を行っています。
- ・ 「聞く」「話す」ことを中心とした、体験的な英語活動をとおして、英語を使って表現しようとする意欲やコミュニケーション能力を育てています。

現状

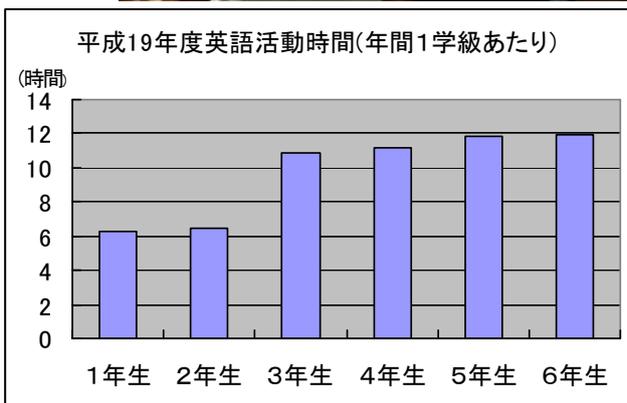
○ 英語指導員の派遣と活用

- ・ 市内すべての小学校において、3年生以上で10時間以上、1・2年生で5時間程度の英語活動が行えるよう、英語指導員を派遣しています。

四日市市在籍の英語指導員（YEF）・・・・・・11名
委託業者から派遣される指導員（HEF）・・・・7名



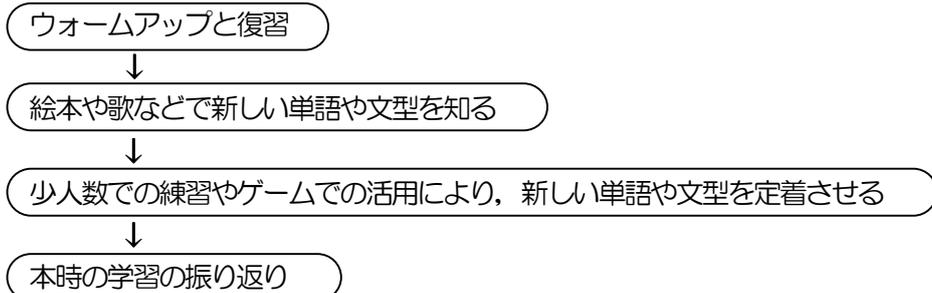
- ・ 各学校では、英語指導員を計画的に運用し、3年生以上では総合的な学習の時間、1・2年生では特別活動の時間等に英語活動を行っています。
- ・ 一緒に給食を食べたり、特別活動や休み時間とともに活動したりするなど、英語活動の時間以外にも、子どもと英語指導員がかわる機会を設けています。



○ 四日市市小学校英語活動カリキュラム（以下：カリキュラム）の活用

平成18年度から、四日市市独自で作成したカリキュラムを活用して、教師と英語指導員とのチームティーチングで英語活動を進めています。カリキュラムでは、各レッスンごとに目標を定め、英語によるコミュニケーション能力や言語力を身につけることをめざしています。

<各レッスンの流れ>



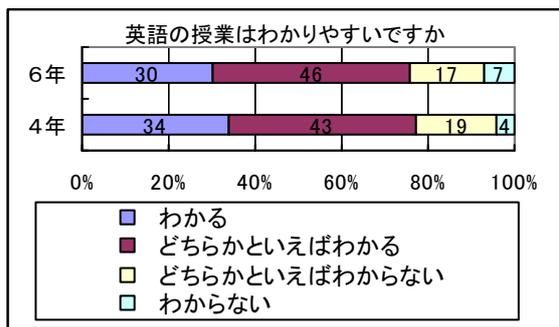
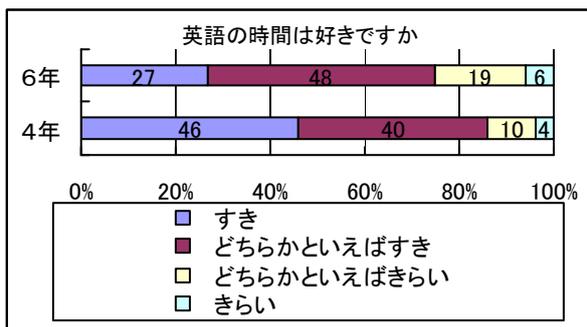
子どもたちが楽しみながら活動する中で、自然に英語を使ってコミュニケーションを図り、「伝わった」という実感をもつことができるような内容になっています。

○ カリキュラム研修会の実施

教師と英語指導員がカリキュラム内容を深く理解し、チームティーチングが適切に行われることをめざして、カリキュラム研修会を4回行いました。すべての小学校から1名ずつの教員が参加し、実際に子どもの立場でカリキュラムレッスンを体験したり、英語指導員と簡単な英会話でコミュニケーションを図る研修を行うことにより、参加者からは「担任として、どういう場面で子どもに声をかけるとよいかわかった」「レッスンの内容だけでなく、ねらいも知ることができた」「これからは、英語指導員と積極的にコミュニケーションを図りたい」といった声が挙がりました。



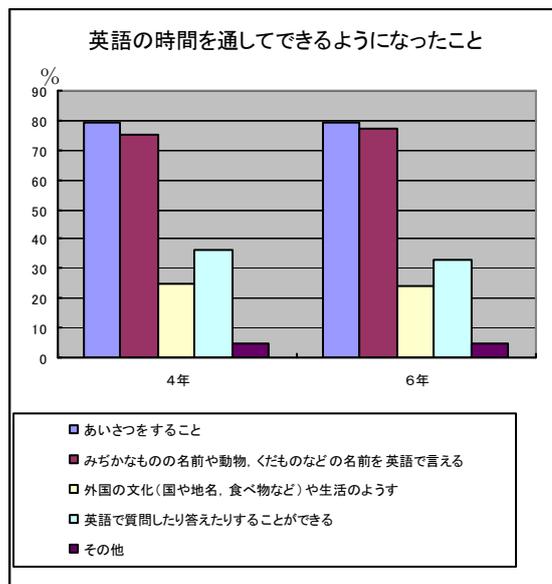
○ 英語活動を通してみられる子どもの姿



抽出8小学校で行ったアンケート調査（4年生685名、6年生666名）において、全体で80%以上の児童が英語の時間が「好き」「どちらかといえば好き」と答えています。また、75%以上の児童が英語の授業を「わかる」「どちらかといえばわかる」と答えており、多くの子どもたちが、英語活動の時間を楽しく、分かりやすいと受け止めていることがわかります。

「英語の時間を通してできるようになったこと」については、4、6年生どちらも70%以上の児童が「あいさつ」や「身近なものの名前など」が英語で言えるようになったことを挙げており、コミュニケーションの第一歩としての言葉を身につけていることがうかがえます。

また、「英語活動についての願い」という項目では、60%以上の児童が「もっと英語が話せるようになりたい」「英語を聞いてわかるようになりたい」と答えており、コミュニケーションへのさらなる意欲を持っていることがうかがえます。



課題（今後の方向）

- 平成19年度に、カリキュラムを教師の役割がより分かりやすくなるよう改訂しました。今後は、教師と英語指導員とのチームティーチングをこれまで以上に進め、さらに英語活動を充実させていく必要があります。
- 新しい学習指導要領（平成23年度施行）のもとで始まる小学5、6年生での年間35時間の英語活動の展開や指導について、パイロット校(内部小・内部東小)の実践を参考にしながら、検討を進めていく必要があります。